



第 6 回

6



先生達の ヨガとの出会いと今

もう治らないと言われた腎臓病をヨガで克服し
そこから得た輝きに満ちている紙屋先生。
生を見つめ、自分と向き合う、そんな先生の半生を紹介したい。
大変な安らぎを与えてくれる先生の原点がここにある。

写真=黒川友香



「もう治りません」

「このままにはもう骨盤が壊かっただよ」

先生が話す。2歳の時に発病した骨腫瘍、紙屋先生の人生は、この凶悪な病気といかにつき合はずかゝ向き合うかというところを追求する圖だ

た。そこで、その過程で自分が出会った、ヨガによって体と心を支え、またそのヨガの素晴らしさを多くの人に分かち合おうと努めてきた。

骨腫瘍は遠隔機能を持つ、簡単に言えば癌を作る魔術だ。この魔術の機能が悪いと、体が必要とする栄養や酸素などを吐き出せず、どんどん体内にためてしまい、慢性的な骨腫瘍の症状としては、だるさや貧血、息苦しさ、そしてむくみなどなど。つまり、常に心身ともに重く、やがてそこから死んでしまう。

それでも歩き前も歩き後も筋屈先生は歩けぬまごとにチャレンジし、胸痛を口にしてたくさんの方を飲み、いふと思われる事をいろいろ試してみた。しかし、病気は歩き出でますに成人。引退の時には、編み出すべきです。もう治りません。手術も専めませる」との宣告。不治の病としてのレーベルを戴かれてしまったのだ。

「あと何年生きられるんだろう、こんなつまらない日々がどうぞ長い腰もんだろ」と胸元を抱き、黙黙感傷いつぶつになってしまった。それなら今死んだ



最初の頃の写真。『アサナセミナー』のゲーマー・ミットクリーチ兵士を支援とともにニューオーラ国を訪ねた際に一緒に撮った一枚。左の下で手をつながる先生の眞剣の顔が印象的だった。写真

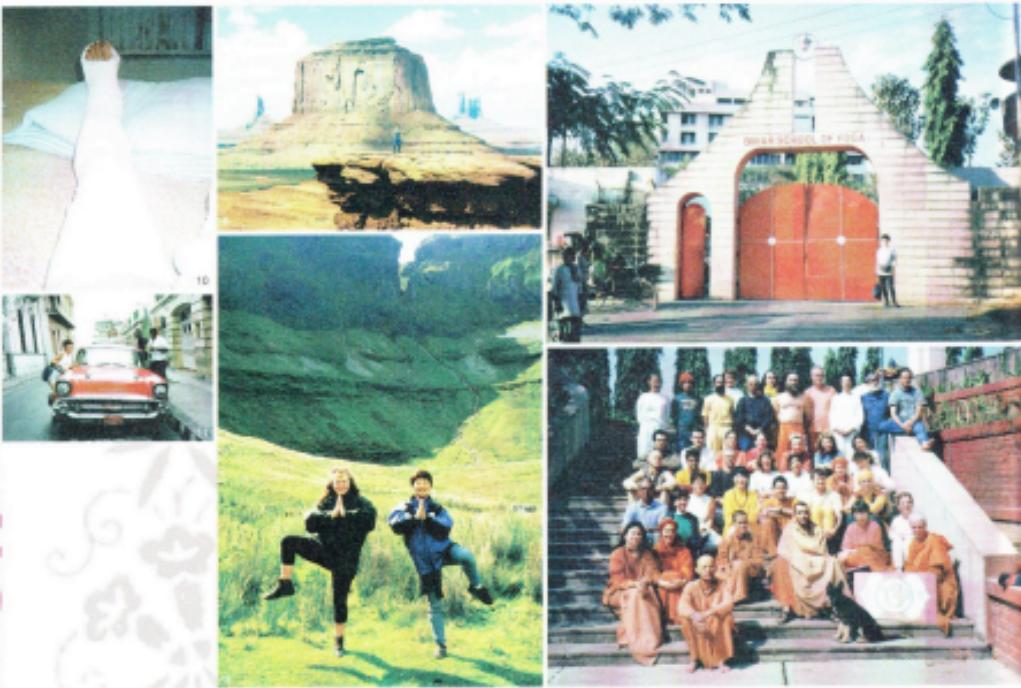
「ヨガをしていると
日々、生きることのうれしさが
増していくんです」
紙屋まさみ先生



1:ヨガの時。このころにはもう骨盤を壊していた。2:高校時代。8~70年代、高大してからは体を鍛え始め、コンバニオンなどの仕事も4:面倒見で働くところ、「ハックルワーカーにちは」のレギュラーなどとして活躍

ほうがマント恩賜ごとくヨガの世界に
なって、本業で印度のヨガを教える所
へ行けただけで、死にきれなかったん
です。死ぬないなら生れるしが
あります。今まで何時も死んでいた。生
れても、常に死んでいた。生
れても、常に死んでいたんです」

最初はエアロビクスに挑戦した。
けれど、苦しそうで続けれなくなっ
た。とはいって、自分で我慢するとい
う意識が芽生えていたのは確かだ。
そうこうしているうちにヨガに出会った。
1972年、「最初は体のために思つ
ていたので、ひたすらアーチナのみ
でした。けれど深い呼吸をしてアーチ
ナをするよ。これまで覚えていた
自己治療法が好みが変わってしまった。
自分が解説していくと、周囲の機
械が回復していく。体がよくなっ
ていく。ヨガをすることで体内外の
バランスが脳幹筋に繋がっていく
に気がつき、その実感から身上に採用さ
れていった。知らなかつた快適なアーチ
ナの子孫が世界中のヨガの先生になつて
いったのだ。ヨーロッパへ一歩を踏み出
したことが書かれていた。「今ヨガ
西洋医学の考え方では體といふのが
あれば、病院に行く、薬を飲むとい
う方法でからだを見つめたと思うが
す。ヨガは東洋医学にのうとういた
名ふをします。これが不調だから



5: 1972年6月、初めてのインド。ヨガと生きる先生にとって大きな一步を踏み出した年にな
った。6: 1974年、インドの「ISHWARI SCHOOL OF YOGA」にて。7: 同じく、一緒にヨガを
学んだ印度達と卒業式での。ちょうど真ん中あたりで黄色い服を着ている女性が先生。8: 1975
年ヨリソリテで、世界中を廻りて回った。9: 1977年、アイルランドへ渡りした際に撮影
10: キューバで撮影 11: キューバで画面に違う直前に撮影

6

人生道の生き方との出会いと今

心を教えてくれたスワミ・
チャーランダ師。1948年も
1955年もインドでスワミが主
催するハイギャー(複数の多
様なための祭りの総称)に参
加した。この時にちくまん
の心を受け取った。



卷之三

鶴屋先生の美しさは、
自分自身と常に對話し、
正面に生きているから
こそ。後桂道から關心
を寄せられるカリ
スマだ



インドへ。アメリカへ

一九八二年、初めての渡印。娘は二歳。ヨーロッパへ渡り、アーチナセントラルへ入り、ダーマ・ヨガトゥラ博士に師事し、アーサナを極めていた。

いということです。今までの所蔵経歴が本当に、本物のあなたにしたいかどうか直視してみましょう。

「今日を精いっぱい生きようと思えば、本気の扉を開けられます」

選んだのだ。以来、サンフランシスコ、スペイン語のおもひで、それがアーヴィング・ヨガを始め、それを観察したヨガを始めたために、Shanti Path(サンティ・パス)、「アーヴィング・ヨガの母」として世界で評議される。

方とじゅばおりではあります。だつて私も明日のことはわかりません。でも、それなのに、明日にがあるからといひ、やがて後回しにするのもいいのです。今やならないわけなんですよ。そんで、今を一生懸命過していくのがいい。明日はもう来ぬなりでいると信じてよいのですね」と。

この豪氣に胸こわごの風を吹きなさい。自分に対しての誇張的な説教。そうやって自分が頑張らなければいけます。それは、自分が問題を解決してやれはしないのです。私は「おお、やめやめやめ」と思ってきましたが、自分の頭を垂れようとしないから、自分の頭を垂れようとしないから、本当に問題はないのか? 本当に、その言ふ眼で納得していますか?

「今を生きます。」

11月一瞬は永遠!「
懸りないのです」



1: 顔を日は余ダレッキン
を受けければいはげない。
歩く事でみうと歩かない性
ふれようと懶懶む。そ
ちが本気の一つ。2: 著
書はホームページで販売する。
日本製の墨を用ひは、9
ヶ月の販売になります。￥1,
300円。3: 取扱店、1年
に数回しかかない花が咲
いていた。4: 有名なレッ
スンは、著者の経歴、先
生と師匠と考え方を詳しく
見た人だけが受けられます。
まずは、ホームページから。
<http://www2.polo.or.jp/~shimakata/>

先生達のヨガとの出会いと今

6

春の花、年に2回、必ず行われる
ヨガヨーロッパ。毎回参加した人達は
人生そのものが変わることなく、確実
に、そのリルモードで常にスムーズ一
貫に運ばれるヨガパーの「流れ」に
背かれたり、先生からのメッセージを
ここに掲げた。それは、「ヨガ」とい
うに生きるヨガ、「二種の心」の持た
れなど、ありふれない多くの豊かな受
取感がここに詰まっている。「あれ? なん
でやつらのヨガは、このヨガはね
これ? 何でや? 限りナシのヨガ
たのしいやつ! あなたは、どうやがれ
でこのヨガか。今、なぜ? なぜ受け
取る? 何やうな? 」「ああ、私
あなたは、言つやつやうやあが、私
は、なんや? なぜやつやうや? こんな
に變るねえ? 変わねえ? 変わねえ?
見たないものはないな? 今、生
のやうある。とよきよく。」「今、生
きてるや。とよきよく。」「これは上
に、苦難らしいとはないのです。
」「んんん、悩みがあり? や」「悩
や、怖れや。」イライラが、あなたを
襲ひたこと? 「心が、心が病んでいた
が、それよりも、やりふらぬこと、大
きな心の心の「愛」は決してれて
いる。あなたの心は決してヘタヘタ。
「今までのやつ。」この一闇はお題だ
らならないのやつ。」この心が老けて
しまふ。朝一杯、開けて、愛に沈み
るためだ。」